

月影



第38号

しゅじよう ほとけ らい
衆生、仏を礼すれば、
ほとけ みたま
仏これを見給う。

しゅじよう ほとけ とな
衆生、仏を唱うれば、
ほとけ き たま
仏これを聞き給う。

しゅじよう ほとけ ねん
衆生、仏を念ずれば、
ほとけ しゅじよう ねん たま
仏も衆生を念じ給う。

ほうねん
法然



私たちが阿弥陀さまを礼拝すれば、
阿弥陀さまは、その姿をご覧になられ、

私たちが南無阿弥陀仏と唱えれば、

阿弥陀さまは、その声を聞いてくださり、

私たちが阿弥陀さまを心に思えば、

阿弥陀さまも、私たちのことを、

思ってくださいます。

阿弥陀さまは私たちのことを、

幸せな時も、そうでない時も、

いつでもどこでも

見ていてくださり、

聞いていてくださり、

そして、思っていてくださっています。

それはまるで親子のように、

心一つとなって、

互いに応じ合っているのです。

お経の話

何が書いてあるの？

じょうどしゅうせいぎんぎょうしき

あかほん

浄土宗 西山勤行式 (赤本) 解説

連称念仏

れんしょうねんぶつ

なむあみだぶつ

南無阿弥陀仏・・・

訳) 阿弥陀さまに身も心もすべて
おまかせ致します。

ある人が、法然上人に尋ねました。

「えらいお坊さんが申すお念仏と、私たちが在家の者が申すお念仏とを比べたら、どちらが勝れ、どちらが劣っているでしょうか。」と。

法然上人は、

「どちらのお念仏も功德が同じで、まったく違いはありません。」とお答えになりました。

法然上人が説かれた教えは、僧侶であろうと在家であろうと、智慧があらうと無智であらうと、心が乱れていようと落ち着いていようと、お念仏ということに違いはないので、平等に阿弥陀仏のお迎えを受けることができます、という教えです。

厳しい修行をしたえらいお坊さんでも、自分の力(自力)で極楽へ往生したいと思ってお念仏を唱えていると往生できないのです。

寝ている時も起きておまかせしている時も、ひたすら阿弥陀さまにすべておまかせして(他力)お念仏を唱える者だけが、命終わる時に阿弥陀さまのお迎えにあずかるのです。

法然上人

八百回大遠忌

四月二十五日〜五月一日までの七日間。本山永観堂禅林寺において、法然上人八百回大遠忌が厳修されました。

期間中、例年にならない寒さで、初日は雪まじりの雨が降っていました。連日堂内にあふれるほどの参拝者があり、七日間で約七千人が全国から参拝されました。

常林院からは総代さまはじめ、十七名の檀信徒さまが参拝されました。

五十年に一度

大遠忌という法要は、五十年に一度しか行われぬ法要です。

一般の法事でも、五十回忌の次は百回忌というように五十年ごとに行われ、遠忌（おんき）と呼ばれます。

次回の八百五十回大遠忌は二〇六一年に行われます。

法爾大師ほうにだいし

法然上人は今まで、遠忌のたびに天皇陛下から大師号を授かっておられます。

圓光（えんこう）

東漸（とうぜん）

慧成（えじょう）

弘覚（こうかく）

慈教（じきょう）

明照（めいしょう）

和順（わじゆん）

そして、今回の八百回大遠忌に際し天皇陛下から新たに法爾（ほうに）という大師号

が授けられました。

これからは、法然上人の回向を読み上げる時は、宗祖圓光東漸慧成弘覚慈教明照和順法爾大師とお呼びすることになります。

ところで、大師号と言えば、真言宗空海の弘法大師、天台宗最澄の伝教大師が有名ですが、八つも大師号を授かった僧侶は法然上人しかいないようです。



法然上人の遺徳を偲び
御回願される中西管長

だいじゆくしゃ 代受苦者

今回の大遠忌では、法然上人の八百回忌の法要と合わせて、東日本大震災の被災者の御回向も七日間おこなわれました。

仏教では、被災された方のことを代受苦者（だいじゆくしゃ）といいます。

「もしかすると、私が受けていたかもしれない苦しみを、私に代わって受けておられる方。」という意味です。

中西管長と共に、被災された方々を思いながら、僧侶と参拝者全員でお念仏を唱えさせていただきました。

雑記抄

くご縁のある土地く

今年始めに本山から電話があり、今回の大遠忌で宿泊される福井の檀信徒の皆さんに、夕食後法話をしてくださいと連絡がありました。

福井県といえは、先々代住職、祖父玄英の生まれた所なので、喜んでお引き受けしました。

当日は、約九十人の宿泊者がおられました。その中には、祖父玄英が小僧時代を過ごした、安養寺の御住職をはじめ、檀信徒の皆さんも大勢来られています。

お彼岸やお十夜ではなく、大遠忌というめったにない機会に、とても深いご縁のある福井の方々に、導かれるよう

にしてお話をする機会をいただいたことは、やはり不思議な仏縁を感じます。

夜七時から三十分。熱心に話を聞いていただき、改めて福井の方とご縁を結び直させていただいたような気がしました。

平成二十三年五月十五日発行
浄土宗西山禅林寺派

常
林
院